慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	ベルナルド・ダヴンヅァチの貨幣論（下）
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.10 (1914. 12) ,p.1255(27)- 1270(42)
JaLC DOI	10.14991/001.19141201-0027
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19141201-0027

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

within the year. Occasioned by Mr. Pulteney's Pamphlet on that Subject London 1779.

此書は英米戰爭（米國獨立戰爭）の最中に出でゝ主として戰時財政の見地より軍費幷に國民生活料の供給を充實する方案に關しバルトネー氏の所論を評騭したるものにして恰も百有餘年の後英國が獨墺と交戰中なる今日に於て之を讀むに興味大なるものあり。英米戰爭は間もなく英佛大戰爭によりて接續せらる、佛國大革命米國獨立戰爭ナポレヨン戰爭の續出せる當時に於ける世界の二大國たる英佛兩國比較論は誠に趣味深き研究題たり之を眼光炬の如きアーサー・ヤングに就て學ぶ百年後の讀書生の幸も亦た大なる哉。而して予は先づ左右田三浦兩君が這箇の貴重資料を自由に予の手に置かれたる芳志を深謝せざる能はざるなり。

附言。バルトネーの書著題左の如し。

Pulteney, Consideration on the present state of public Affairs, and the Means of raising the necessary supplies.

但し予は未だ此書を見るを得ず。

（次號完結）

ベルナルド・ダヴンヅァチの貨幣論（下）

高橋誠一郎

「太陽と地熱とは恰も蒸溜法を行へるが如くに地球の內部に於ける最良の液體と固體とを分離せしむ、斯くてそは適當なる鑛脈及び鑛坑に滲通し、而して茲に凝結して次第に堅固と爲り成全して軈て金屬と化す、就中最も稀少にして且つ完美せるは黃金と白銀との二者にして其光輝と色彩とに於て世界の二大發光體（日月）に類似せり」。彼の講演は斯くの如くして其緒を發したり。貴金屬の永續不朽にして然も變通自在なる性質は人をして往々彼等の內に神明の宿るを想はしめ、或る印度種族の如き黃金の採掘に從事する場合には必ず食を斷ち、婦人との交、並に其他一切の歡樂を遠くるの常なりと謂ひ、其萬能力に言及しては聰明勇武なる古王の言を引きて黃金を荷へる驢の動し得ざる巖なしと說き、彼のジュピター大神が Danaë

の膝に金色の雨と共に天降れる、は此美少婦の上に黄金の奇蹟が如何に顯著なる作用を及ぼしたるかを敎ゆるものに外ならず、洞窟内を歩みて、ゆくりなく發見したる屍骸の指より金の指輪を脱き取りて己が手に挿めたる Lidia の牧羊者 Gige が忽然其形を消して、國王の寢所に忍入り、先づ王妃を有頂天ならしめ其援助に依りて國王を弑し、王國を横領したることも亦黄金の威力に基く。然れども凡そ地上にありとあるもの悉く皆人生の爲めに創造せられざるなきに、黄金並に白銀は彼等本來の性質に於て吾人の生活維持に貢献する所極めて少なきものなり、然るに尙ほ彼等は吾人々類の協定に由りてあらゆる他の貨物の代價及び尺度として又是等貨物を交易循環せしむるの手段として普く採用せられたるものなれば吾人は之を呼びて人生幸福の第二原因とは爲すなりと論じたり。E possiamoli dire cagioni seconde della vita beata, dandoci eglino tutt' essi beni.

吾人は孤立無援獨力を以て復雜多岐に渉れる吾人の欲望を充足せしむることは能はず、茲に吾人は都市を形成し、各種の分勞を營み、長短相補ひ、有無相通じ、以て生活の充實を期するは當に自然の數にして、斯くて商業の發生を見るなり。商業は初め單純なる物々交換の形に於て現るゝも、然も此場合に於ける需要と供給との適合を見出すの困難は旋て市場、大市場並に交易媒介物の存在を見るに至らしむるの任に當りしものは銅にして、是れ其價値の貯藏たるに適せるに基因するも、其後金及び銀之に代るに至り、無鑄貨の時代より秤量制度を經て個數制の今と爲れるを說き、筆を轉じて、希臘、希伯來、羅馬の古より第十三世紀の Firenze に於ける貨幣鑄造の歷史を述べ、其名稱に關する歷史的叙述を試みて博學を誇り、茲に岐路を去つて本論に歸り、彼の最も特有なる貨幣の定義を下したり。

曰く「貨幣は公の權威に由りて任意に鑄造せられ、而して國民の承允に籍りて萬物の取引を一層容易ならしめんが爲めに其價格及び尺度たらしめたる金、銀若しくは銅なり」と。彼は次で其定義を解說して言ふ。(一)本定義中に於て特に「金、銀若しくは銅」と限定したるは、人々が貨幣たらしむ可く是等の三金屬を選みたるが故なり。若し君主にして、事實過去に於て其例を見たるが如く、鐵、鉛、木、キルク、皮、紙、鹽若しくは其他の貨物を以て貨幣たらしめたりとせば、そは社會上遍く同意せられたる物

質を以て鑄造せられたるものにあらざるが故に、其所領以外に於ては受領せらるゝことなかる可し、即ちそは普遍的貨幣たることを得ずして振出人たる君主が他日支拂能力を有する場合には之に相應する良貨を以て支拂を行はざる可らざる手形たるに過ぎず。斯くの如きは貨幣缺乏して、社會の公益上其必要を見たる場合に往々實施せられたる所なり。(二)定義中に於て「公の權威に由りて鑄造せられ conato dal pubblico」云々と有るは、凡そ如何なる金屬と雖も何等の混合物なく純分のみにて存在するものにあらざれば、同一價値の貨幣を鑄造せんが爲めには品位を定め、量目を正し、極印を捺刻する等幾多造幣上の技術を行はざる可らず、然も此事たる私的利益に誘惑せられ易き個人の手に委ね得可き性質のものにあらず、公益の代表者たる君主に由りて行はる可きものたること論を俟たず。私人が任意に自己所有の金屬を以て貨幣鑄造を行ふ時は僞造の罪を以て所罰せらるゝと雖も、之を造幣局に輸納して造幣を請求するあらんか、同局は之を受理し直ちに法定の貨幣に鑄造せざるを得ざるなり。(三)特に定義中に「任意に a piacimento」の文字を挿入せるは貨幣鑄造のことたる國法の所定に則りて行はる可きこと勿論なるも、國法の規定は單に造幣の大本を示すに止まり、其細則に至りては全然造幣奉行の任意に委せられたるを以てなり。故に人民は常に張目して其間に不正の所業の行はれざらんことを監視するを要す。(四)「國民の承允に籍りて萬物の價格及び尺度たらしめたるものなり fatto dalle genti pregio e misura di tutte le cose」と云へるは即ち人類が這般の金屬を以て是等の用途に使用することに同意を與へたるが爲めにして、決して彼等が自然價値を有するが爲めにあらざればなり（彼の所謂自然價値は單純なる使用價値を意味するに過ぎざること後に至りて自ら明かなる可し）。

天然の犢は黃金の犢よりも遙に尊きも然も其價格遙に劣れるにあらずや。僅かに金の半粒を値するに過ぎざる一個の鷄卵も、飢渴の塔中に幽閉せられたる Ugolino 伯（Dante 神曲中の人物）には十日間の生命を支へしむるに足れども（valev'a）、然も此世にありとある黃金の全部も之を爲すに足らざるなり（no'l valeva）。吾人の生活上小麥に勝りて重要なるものあり得可きか。然るにその小麥の一萬粒は僅に金の一粒に代へて賣却せらるゝなり云々と。

Davanzati の採用したる Moneta è oro, arienta, o rame, coniato dal pubblico a piacimento, fatto

dalle genti pregio e misura delle cose per contrattarle agevolmente なる定義は後に Galiani を
して彼は其研究の主題たる貨幣其物に關して全然無智なりとの攻擊を加ふるの
資料と爲りしものなるも、貨幣はあらゆる近代的經濟現象の根底にして然も經濟
學上に於ける最大なる難關なり。幾多の貨幣論者は之が眞相を究めんとして苦心
せりと雖も、或は其蟠根に躓きて脆くも倒れ、或は其皮相を穿ちて獨り得々たるの
類に過ぎず。未だ今日に至るも眞に滿足なる解決を遂げ得たるものなし。知らず、
Galiani の Trattato della Moneta 果して幾歩を Davanzati に進め得たる。現代學者の與ふ
る貨幣の定義、果して Lizione delle Monete のそれに比して幾干の優れるありや。

Davanzati は筆を進めて價値の一般的原因を論じたり。曰く、然らば其性質上斯く
價値多き物が、上述の如く小量の金と等しき價値を有するに過ぎざるは抑も何が
故ぞ。而して一方が他に比して斯く大なる價値を有しながら等しく金の一萬粒を
價せずして、僅に其一粒を價するに過ぎざる所以のものは抑も如何なる理由に基
くや。吾人は其外界の事情に由りて影響せられたるものにあらざるや否やを考査
せざる可らず。總て人類は彼等自身の幸福を目的として勞働す、而して彼等は其缺
乏の感及び欲望の念を滿足せしむるに由りて己が幸福を見出さんことを期する
なり。天然は此目的の爲めに吾が坤球上の萬物を順應せしめたり、斯くて是等萬物
の總ては、各國民の承允に籍りて、既に世上に生産せられたる金銀及び銅をも含む）
の總てを價す。是に於て乎、あらゆる人類は彼等の缺乏及び欲望滿足に必要なるあ
らゆる貨物を購入し、以て人生の幸福を享有せんとし、茲に總ての黄金を熱烈に貪
求するなり。各部分は總體の性質を具有す。金に由りて量られたるあらゆる貨物の
價値は各個が全體に對して表す其部分それ〴〵の比例に據りて決定せらるるな
り。水の吾人に與ふる滿足の程度が咽渴の程度に比例するが如く、吾人の受くる幸
福は缺乏及び欲望を滿足し得る割合に從つて生ず可きものなり。意志は其尺度を
食欲及び歡樂に求め欲望は其尺度を自然、季節、氣候及び場所並に常住不斷變轉已
むなき各貨物の卓越性、稀少性若しくは存在量に求むるなり云々と。以て如何に彼
の價値論の主觀的なるかを見る可し。彼の Sewall 博士が其著 Theory of Value before
Adam Smith. 中に於て謂へるが如く初期の經濟學に在りて價値學說として擧ぐ可
きものありとせば、そは悉く勞働費說にして重金主義者流の思想を超越して合理

的經濟意見の先驅を爲せりと稱せらるゝ Petty 及び Locke の如き其著例にして、天則學派も亦同じく價値に關する觀念著しく客觀的に失し、富を以て原料物品と同一視し、價値を以て暫く生産費と同一視せるも、窮極其本源に溯つては之を物品中に含有せらるゝ農産物、殊に勞働者に由りて消費せらるゝ生活資料と同一視するの傾向あり。Grotius 及び Puffendorf の徒は缺乏及び欲求を以て價値の重要なる一要素と看做したるも、然も其基本價値の觀念に至りては結局生産費説に座するものに外ならず。然るに Davanzati が早く既に第十六世紀の交に於て獨り主觀的價値説を主張せるは吾人の最も痛快を感ずる所にして、是を彼よりも稍や遲れて Justum Pretium の根底を危ふからしめたる同國人 Sigismonde Scaccia 及び Buoninsegni 等の所論に比するも興味ある可く、而して等しく勞働價値説全盛の第十七世紀末に於て確然たる主觀的價値説を力説せる Modena の人 Geminiano Montanari 及び英人 Nicholas Barbon の先縱を爲せるものとも稱し得べし。

彼は幾多文學的なる例證を擧げて其價値發生論を説明せんとせり。曰く Pindaro の言の如く水は人間生活上必要缺く可らざるものなるも何人と雖も無償を以て無限に之を取得し得るを以て無價値なり、鼠は人の嫌惡する所なるも然も Casilino 包圍の際には其一疋の價二百 fiorini にて賣買せられたり。然も其價格たる毫も之を高直なりと云ふ可からず。何となれば其翌日に至り之を賣りたるものは餓死したるも之を購ひたるものは生命を維持し得たるを以てなり。斯くの如くして Esau は其生れながらにして得たる尊き權利を棄て、Esopo 物語の鷄は寶石を以て無用と爲せり。人間の虛榮心は器具、寶玉、彫像、繪畫及び其他の瑣末なる骨董品に對して著しく大なる價値を置くに至れり、是れ即ち彼等が是等の貨物に對して支拂ふ金の數量に於けると同一割合の滿足を其間に見出すが爲めに外ならず。當初 Perù の土人は鏡、針、鈴などの類と交換に金貨錠を交付したり。是れ即ち彼等が其當時に在りては彼等の間に珍奇を極めたりし這般の貨物に對して多大なる估料を行ひ、是に由りて彼等の間に饒多なりし金銀以上の滿足を贏ち得たりしを以てなり。斯くて是等の地方より金の流入續々として起り、物價をして三分の一の昂騰を爲さしめたり。這個物價の騰貴たる正に國内に於ける貴金の增加を示すものなり。而して該地方の貴金悉く歐洲に移入し盡さるゝの秋來らばそは遂に望み手なき貨物と

化し、結局吾人は他の稀少なる物件を以て貨幣たらしむるか或は昔日の物々交換時代に復歸せざるを得ざるなり云々と。彼の價値說にして僅に一歩を進め得ば、第十九世紀に於ける其發見者が天文學上に於ける Copernicus の發見と比較す可き一大創見なりと誇稱せる彼の限界效用說とも爲りしなる可し。

上述の如く簡單ながら Davanzati が貨幣の改惡以外に物價騰貴の原因を知悉し貨幣價値の變動が其定量の變化に伴ふ所以を論述し得たるは瑣か注意す可き點なる可し。抑も初め物價騰貴の原因を求めて、新世界よりの貴金屬輸入に歸せるものは佛人 Jean Bodin なり。其著 Réponse aux paradoxes de M. Maiestroit touchant l'enchérissement de toutes les choses et des monnaies（一千五百六十八年版）及び Discours sur les causes de l'extrême cherté（一千五百七十四年版）並に Discours sur le rehaussement et la diminution des monnaies（一千五百七十八年版）を參照す可し。稍や遲れて出版せられたる英書に Briefe Conceipte of English Policy（一千五百八十一年版）あり。書中同じく物價騰貴の原因を金銀の輸入に求むるの言あれども、然も少なくも一千五百六十五年以前（即ち Bodin の書の出版せらるゝ以前）に手寫せられたること明かなる William Lambarde 及び Jersey 伯の所有に屬せし此書の兩寫本には如上の所言を發見すること能はず。恐らくは Lamond 女史が考證の結果の如く此書の眞著書たる John Hales の有せざりし意見を其出版者たる W. S. gentleman なる人（即ち William Stafford 或は William Shakspeare と誤傳せられし人にして、實は William Smith なる可しと云ふ）が Bodin の著書に學びて茲に挿入したるものなる可し。Davanzati の著は此書の出版に遲るゝ更に七年なり。或は彼も亦 Bodin に學びたるにはあらざるか。

餘事は偖て擱きつ。彼は說き進みて、貨幣は他の貨物に比して蓄積貯藏の便多きが故に之に對する欲望は著しく他に越へて增大し來り、茲に社會に於ける百惡の根源を成すに至れりと稱して貨幣制度を呪詛するものあるを難じ、Epitetto の言を藉りて物は總て兩個の柄を有せり、或は是を善用す可く、或は是を惡用す可し、理智、醫學及び法制も屢々惡用せられて人類破壞の用に供せられたる例乏しからず、然も斯くの如き理由を以て國內に之を禁止し得可きや、雜多の物象を目睹するは眞想靜觀を妨ぐるものなりとの故を以て哲學者は皆 Democrito を學びて其兩眼を刻出せざるを得ざるか。貨幣は實に偉大なる發明にして無限の善果を釀生す可き機

關なり。若し茲に之を惡用するものを見たりとせんか、罪す可く、罰す可きものは人にして物其物にあらざるなりと論せり。彼は又貨幣を以て戰爭及び國家の筋力（il danajo è il nerbo della guerra e della repubblica）と稱するものあるに對して自ら其第二の血液（il secondo sangue）なりと名け、凡そ一國の要する貨幣の高にそれ〴〵相違あること、宛も人間がそれ〴〵の身體に由りて其必要とする血液の量を同うせざるが如しと說きたり。而して是れ實に William Petty が其著 Verbum Sapienti, or An Account of the Wealth and Expences of England, and the Method of raising Taxes in the Most Equal manner に於て、而して Dudley North が Discourses upon Trade に於て一國の經濟狀態に因り其所要の貨幣量に相違ある所以を說けるの前、約八十年乃至百餘年の昔なりしを記憶せざる可らず。

次で彼は貨幣價値の人爲的下落に論及し、鑄貨にして愈々其品位改惡せられ、其量目愈々減少せんか、獨り民間に於ける債權者のみならず國家も亦歲入の減少に由りて損害を蒙むること愈々大となる所以を說けり。即ち彼等は一定額の貨幣中に從前よりも少なき金及び銀の分量を受理することと爲り、旋て又彼等の消費に適せる貨物に對して交易を行ふ可き金屬の分量を有すること少なきに至る可し。畢竟貨幣の價値減少したる場合には他の貨物が其價格を昂むるに至るの結果を見るは常に免るゝ能はざる所なるを以てなり。凡そ貨物は鑄貨中に含まれたりと想定する金屬を目的として交易せらるゝものにして、單に貨幣の記號、稱呼若しくは個數に對して交易せらるゝに非ず。若し今百九個の貨幣中、從來の百個中に含有せられたると同一量の銀を含有するに過ぎざるに至れりとせば、吾人は從來其百個を以て購入するを得たるものに對して百九個を與へざるを得ざる可きかと論じたり。彼は更に fortino 金貨と lira 銀貨との交換割合の變化より說きて金銀兩貨の併行する場合に一方の價値下落が他方に及ぼす影響に言及し以て貸借關係の攪亂せらるゝ所以を述べたり。良きに過ぐる貨幣は外國に逸し、去りて茲に改鑄せらるるの危險ある可しとの意見を抱くものあるも是れ杞人の憂なり。何となれば是等の貨幣は恩惠的に其輸出者の手に贈與せられたるに非ずして、彼は之に對し良貨の割合を以て支拂はざるを得ざればなり。他國が惡貨の濫鑄を行ひたればとて自ら此最大の罪惡を敢行するの必要存することなし。遂かに惡貨鑄造の誘惑を拂ひ

貨幣をして其內部價値に從つて流通せしめ、貴金屬をして彼の水陸兩棲動物の如く自由に地金より鑄貨に、鑄貨より地金に移らしゆ可し。E per levare ogni tentazion di guadagno, e tutti i segni nettare, e la cosa far tutta orrevole, e chiara, e sicura, vorrebbe della moneta tant' esser il corso, quanto il corpo, cioè spendersi per quell' oro o ariento che v' è; e tanto valere il metallo rotto e in verga, quanto in moneta di pari lega, e potersi a sua posta sanza spesa il metallo in moneta e la moneta in metallo, quasi animal' anfibio, trapassare. 而して造幣局は無手數料を以て鑄造を行ふ可く、彼の Giunone 女神の殿堂を公開して此處に造幣の事務を行ひたる古羅馬の民に倣ひ、公明正大なる貨幣鑄造を行はしむ可し。今日の如く混亂を極めたる貨幣制度にして維持せられんよりは、吾人は寧ろ鑄貨を有せざりし原始時代に歸りて、今日も尙ほ支那に於て見るが如く常に秤量と鉸刀とを携帶して交易に從事するを欲するに至る可しと痛論し、最後に其所論を總括概言して其講演を終れり。

後世の新智識を以て前時代の舊著を難ずるはいとも容易の業なる可し。遮莫、苟も他を論じ其學說を批判せんとせば須く先づ是が時代を見ざる可らず。Travers Twiss は彼を以て交換價値と使用價値との區別を知らずと嗤ひ、Luigi Cossa は彼の著を以て淺薄短見なりと貶せりと雖も、吾人は遠く第十六世紀に於ける經濟學の搖籃時代に於て既に此人を得たるを多とせざる可らず。吾人は殊に彼の講演中に後世の貨幣及び價値に關する幾多の學說が(或は全然相反せるものと看做す可きものまでが雜然として)其頗る幼稚なる形態に於て不用意なる言語を以て表明せられつゝ朦朧と其萠芽を示しつゝあるを注意せざる可からず。

此より凡そ一世紀にして英國に於ける貨幣論中最初の單行本と稱せらるゝ Rice Vaughan の A Discourse of Coin and Coinage : The first Invention, Use, Matter, Forms, Proportions and Differences, ancient and modern ; with the Advantages and Disadvantages of the Rise or Fall thereof, in our own or neighbouring Nations, and the Reasons. の出版となり、(一千六百七十五年)次で Locke, Lowndes, Barbon 等の斯學上見逃す可らざる論爭となり、Law の時代となり、Harris の名著となり、而して又 Liverpool 卿を生み、旋て通貨議となり經濟學界稀に見るの大壯觀を呈するに至れり。

今 Bernardo Davanzati の Lezione Delle Monete 出版の日と三百二十有六年を隔てゝ經

濟學發達の跡を辿りつゝ秋夜獨り燭下に之を繙けば無量の感慨胸に滿つるを覺ゆるなり。

（附言）吾人をして此一小篇を起稿せしめたる直接の誘因は慶應義塾理財科が經濟學史の教科書として採用しつゝある愛蘭土經濟學者Ingram氏のHistory of Political Economyは Davanzatiと其著書に就きて記すること僅に四行、然もそれすら下の如く全く彼に對して同情なき文字より成れるの一事なり。Another treatise relating to the subject of money was that of the Florentine Bernardo Davanzati, otherwise known as the able traslator of Tacitus, *Lezioni delle Monete*, 1588. It is a slight and somewhat superficial production, only remarkable as written with conciseness and elegance of style.（十千九百十四年十月十三日夜）

手形債務發生の原因

西本辰之助

第一　問題の範圍

此問題は從來手形理論と稱し之に關する學者の討究頗る盛にして學説も亦數十の多きに達し然かも今日に至るも尚定説と見るべきものなし此問題を研究する目的は之によりて手形債務發生の原因に付きて一定の原則を確立し此原則を以て個々の場合に生すべき手形債務存否の問題を解決する標準たらしめんとするにあり而して手形理論の問題は重要なる法律上の實益を有することは一つの學説によれは有效に成立せる手形債務か他の學説によれは全然成立せざるの結果を生する點にあり

學者か本問題の性質を表はす言葉は必ずしも同一ならず或は手形の本質殊に手